



PERSON

[人]

デジタルエンジニアリング第3事業部  
ソリューション第三部 第2担当

スペシャリスト

鈴木 一真

## 最新の技術動向をキャッチし お客様のセキュリティ課題を解決

### セキュリティの重要性を理解していただく取り組み

私は2009年の入社以来、サーバやネットワークのITインフラ基盤やセキュリティ・IT資産管理といった製品の導入に携わっています。現在はセキュリティを担当するグループに所属し、プロジェクトマネージャとして、製品の導入における設計から構築・保守までをワンストップで対応しています。また、新たな案件の引き合いにおいては、お客様を訪問して製品の説明やデモなどの受注活動も活発に行っています。

私が主に担当する製品は、Webサイトの改ざんやシステム変更の検知を行う「[Tripwire Enterprise](#)」、システムやアプリケーションの脆弱性を可視化する「[InsightVM](#)」、脆弱性に対する疑似的な攻撃をシミュレーションする「[Metasploit Pro](#)」となります。これ以外にも特権ID管理やシングルサインオンといった企業で関心が高まっている製品も取り扱っており、多くのお客様から引き合いをいただいております。

セキュリティ製品の提案にあたっては、「現時点で問題が起きていないのに何故コストをかける必要があるのか?」といった疑問を持たれる場合があります。こうした疑問に対して、必要なセキュリティ対策を講じなければ情報漏えいや不正アクセスなどの被害が発生すること、最悪の場合は会社の信用が失墜し経営に影響を与えかねない大きなリスクであることを理解いただいています。お客様が抱えるセキュリティの課題を真に理解していただくことが重要だと考えています。

製品の導入に関しては、使い勝手や運用効率を考慮した設計を行っています。製品の機能や使い方を分かりやすく説明する工夫はもとより、導入後にお客様が問題なく運用できるかというのを常に意識し対応しています。

さまざまなプロジェクトを経験して、どのような仕事においてもお客様目線で考えること、社内外問わずコミュニケーションを密



に行うことが大切であると実感しています。このような自身の経験やノウハウを後進の育成に役立てたいと思います。

### 社内外に貢献できるホワイトハッカーを目指す

現在、新型コロナウイルスの流行に便乗し、「新型コロナ」、「COVID-19」といったキーワードを組込んだ標的型メール攻撃やマスク販売、配布を装ったWebサイトのフィッシング詐欺などが急増しています。また、コロナ禍を機にテレワークを導入しているお客様も増えています。多様な場所から業務を行うことが可能となり利便性は向上しますが、それらに関連したセキュリティ対策が追い付いておらず脅威は増加の一途となっています。

セキュリティ技術は日進月歩で、市場もITからOT (Operational Technology)、IoTへと広がっています。IoTの普及が加速する一方で、さまざまな機器がネットワークに接続できるようになり、セキュリティ対策はより一層重要になってきています。当社でもIoTに対応するセキュリティ製品の取り扱いを開始しており、今後の市場ニーズにいち早く対応していく考えです。最新のセキュリティ動向を注視し、お客様のセキュリティ課題に積極的に対応できるよう自分自身の知識を深め、お客様のセキュリティ課題の解決を進めていきたいと考えます。

昨今では、悪意のあるサイバー攻撃からシステムを守る「ホワイトハッカー」への関心が高まっています。私は前述したRapid7社の「[Metasploit Pro](#)」の認定資格を取得しており、ホワイトハッカーを目指すべく第一歩を踏み出したところです。セキュリティのエキスパートとして、業界No1を目指し重要な役割が果たせるようスキルアップに努めていきます。